

## 令和6年度 学校評価アンケート結果についての関係分掌による分析

分野	No.	質問項目	結果と分析等
学習指導	1	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている	生徒の肯定的評価は89.4%と昨年度(89.6%)とほぼ同じ割合であった。全体の約9割と高い数値を示していることは、教員側が生徒の学力状況を的確に把握し、主体的で対話的な深い学びを積極的に導入しながら、個別最適で協働的な学びを適切に実践できている結果であると考えられる。 また、保護者の評価も85.0%と昨年度(79.9%)よりも高まり、生徒が能動的に学習に取り組むことで、その成果を得ていると捉えられる。生徒、保護者ともに高い数値を示していることは、「授業は適切に行われている」結果と考える。 教職員の評価は89.3%と、昨年度(87.5%)より上回り、授業公開研究週間をはじめ、各自が授業研鑽に努めている成果を実感できていると捉えている。
生徒指導	2	挨拶やマナーなどの基本的習慣の確立に関する指導が行われている	生徒・保護者・教職員ともに概ね高い肯定的な評価を得ている。本校の特色の一つとして今後も指導していきたい。
進路指導	3	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている	生徒評価は改善傾向(R5:89.6%→R6:92.2%、+2.6%)にあり、特に2年生の評価(R5:91.4%→R6:95.1%、+3.7%)が顕著に高い。進路が具体化する時期におけるキャリアセミナーや進路ガイダンスが効果的であったと考えられる。一方、保護者評価では1年生の大幅な低下(R5:80.0%→R6:72.2%、-7.8%)が見られ、学校から家庭への情報提供が不足している可能性がある。進路便りの発行を増やすなどして、情報共有を進めていく必要があると思われる。3年生では生徒評価がやや低下(R5:94.1%→R6:89.8%、-4.3%)しており、進路決定期の支援内容をさらに強化する必要がある。
教育相談	4	生徒にとって教員やカウンセラーが必要なときに相談に応じてくれる体制は出来ている	生徒の肯定的評価は87.2%、保護者は81.2%であり、相談体制が整っているとの評価が得られた。しかし、心身の不調を抱える生徒が増加しているため、予約が常に埋まっている状況が続いている。このため、カウンセラーの来校日を増やすなどの対策が求められる。また、スクールソーシャルワーカーとの連携を強化し、より充実した相談体制の構築を目指していきたい。
部活動	5	学校として部活動は活発に行われている	生徒・保護者・教職員ともに高い肯定的評価である。中学校では、部活動が廃止となったり地域移行が進んでいるが、本校は今後も部活動が充実して取り組める学校としてPRしていきたい。
生徒会活動	6	学校として生徒会活動は活発に行われている	生徒・保護者は概ね高い評価を得ている。生徒会役員は各部活動の傍ら生徒会活動を行っている。時間をかけた取組はできないが持ち前の集中力で諸行事の取組を行っている。
学校行事	7	自分(お子さん・生徒)にとって有意義な学校行事がある(学校行事)	生徒・保護者は概ね高い肯定的評価を得ている。
特色ある学校作り	8	学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	生徒82.5%(R5:77.2%)、保護者70.7%(R5:73.8%)、教職員64.3%(R5:75.0%)と、生徒以外は下げ幅が比較的大きかった。本校は柴田町との繋がりは強いものの、地域や伝統を活かした学校づくりの視点では、高く評価する項目が多くはない。地域連携事業をより多く設けることや、本校の取り組みを地域に周知することが大きな課題と考える。「柴田高校らしい特色ある学校づくり」の推進には学校運営協議会(コミュニティー・スクール)設置が必要とも考える。

防災	9	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている	保護者からの肯定的評価が少ない。年度初めや避難訓練時等に校内での避難方法や連絡方法を配信したり、安否確認訓練や引渡し訓練の実施等も検討していきたい。
開かれた学校	10	保護者に対して学校HPや各種通信などで、学校の情報は適切に伝えられている	生徒91.1%(R5:87.3%)、保護者89.1%(R5:87.2%)、教職員92.9%(R5:87.5%)と肯定的評価は昨年度より高まり、ほぼ90%を超える数値となった。令和5年度に比べ、学校行事や大会実施後の定期的なHP更新が高評価へと繋がっていると考えられる。HPは、「学校の顔」とも言われている昨今、まずは定期的更新を教職員共通認識のもと徹底し、「学校の見える化」を構築していきたい。
施設設備	11	学校の施設・設備は整備されている	生徒、保護者からの肯定的な回答は、70%を越えているが、教職員からの評価は低い。校舎・体育館は築39年を経過し、施設設備の老朽化が見られるが、安全面を最優先に考慮した維持管理及び整備に努めるとともに、不備・不便な部分は順次改善を図りたい。安全点検での軽微な不備等については、その都度技師や業者により対応している。高額な施設設備の更新・修繕については、引き続き施設整備計画に計上し、県に予算要求して行く。
いじめ対策	12	【生徒】学校として日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる 【保護者】学校としていじめの問題に対する取り組み方針が保護者と共有されている	保護者の評価が低い。いじめ防止対策の取組計画を事前に説明・連絡するなど丁寧に行っていきたい。実際の取組については生徒・教員から高い評価を得ている。今後も誰もが安心・安全に過ごせる学校として取り組んでいきたい。
総合満足度	13	学校生活は充実している	生徒全体の評価は若干低下(R5:88.7%→R6:87.8%、-0.9%)したが、学年別に見ると1年生は改善(R5:83.0%→R6:87.9%、+4.9%)が見られる。新しい学校生活に順調に対応できたことが理由として考えられる。一方で、2年生(R5:93.3%→R6:89.3%、-4.0%)や3年生(R5:92.0%→R6:85.7%、-6.3%)では低下しており、進路準備や学校生活の単調さが満足度低下に影響している可能性がある。保護者評価でも同様に低下傾向が見られ、1年生の減少(R5:87.8%→R6:82.2%、-5.6%)が目立つ。新入生家庭へのサポート不足や情報共有の不足が原因である可能性がある。総じて、学校生活の満足度は学年が進むにつれて低下する傾向があり、積極的な情報の発信や共有をしていくことが求められる。
保健厚生	14	【生徒のみ】日常の清掃活動をはじめとして環境の整備は適切に行われている	生徒の評価は81.9%と、概ね良好であったが、美化委員による清掃チェックの結果、環境の整備が必要な部分もあった。今後さらに日常の清掃活動に力を入れ、環境整備に努めたい。
	15	健康診断や保健講話・保健だよりにより生徒の健康管理は適切に行われている	肯定的評価が、生徒は95.0%、保護者が96.2%、教職員が100%と、生徒・保護者・教職員から高い評価を得ている。心身の健康に関心を持てるよう工夫しながら健康診断や保健講話を実施していきたい。また、今後も掲示物や保健だよりなどを通じて、生徒の健康管理に関する情報の発信に努めていきたい。
総務	16	(保護者のみ) PTA会員相互の連携が図られており各種行事・研修がスムーズに運営されている	保護者の評価が78.0%と昨年度より下がっているが、概ね理解されていると考えられる。役員は各行事で積極的に活動していただき各行事・研修は昨年度よりスムーズに運営された。PTA会員全体となると共働きの家庭が多く平日の活動が多いため、平日の活動が多く難しくなっている。
教務図書	17	学習、読書及び情報収集の場として図書室は適切に運営されている	肯定的な回答が生徒90.8%(R5:89.9%)、保護者81.2%(R5:78.7%)であった。生徒、保護者ともに昨年度より肯定的評価が高くなった。また、教職員においては100%(R5:96.9%)を示しており、学校内部での視点と、外部からの見方では、乖離があった。今後は、保護者向けの広報をより充実させていくことが課題と考えられる。

進路指導	18	模試や課外講習などで進路達成に向けた実力養成は適切に行なわれている	生徒評価は高水準を維持しており、2年生 (R5:93.4%→R6:95.1%、+1.7%) で特に高い。一方、3年生ではやや低下 (R5:92.1%→R6:89.8%、-2.3%) が見られるが、総じて評価は高い水準にある。保護者評価では、1年生が低下 (R5:87.9%→R6:80.0%、-7.9%) している一方、2年生以降は改善傾向にあり、特に3年生では (R5:82.4%→R6:87.6%、+5.2%) の上昇が見られる。個別指導を重視した進路サポートが学年が進むにつれ保護者からも評価される一方、1年生への情報共有が課題といえる。指導の質を維持しつつ家庭との連携を強化する必要がある。
教務図書	19	芸術鑑賞会など情操を養うための行事が適切に行われている	肯定的な回答が生徒96.1%(R5:95.4%)、保護者93.2%(R5:91.6%)の結果であった。生徒・保護者ともに肯定的評価が90%を超えている。教職員は100%(R5:100%)と、ともに高い評価となった。今年度は、コロナ禍から数年ぶりの演劇公演であった。学校行事として、現地集合現地解散とした取り組みも、生徒、教職員の負担が少なかったことや、講演内容も満足度の高い内容であった結果と考えられる。今後も生徒の芸術的感性を高め、情操教育が育まれる内容を吟味し推進していきたいと考える。
教育課程	20	学校としてスクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている	新学習指導要領カリキュラム完成年度を迎え、特に国語科における学年分割履修の弊害が生じた。しかし、生徒84.4%、保護者84.2%、教職員100%と評価は高く、本校の実態に即した教育課程が編成されていると捉えられる。今後は、生徒、保護者にスクールポリシーや学校の教育目標をより広く深く浸透させ、適切な進路実現に繋がられるカリキュラムマネジメント推進が図れるよう取り組んでいきたい。